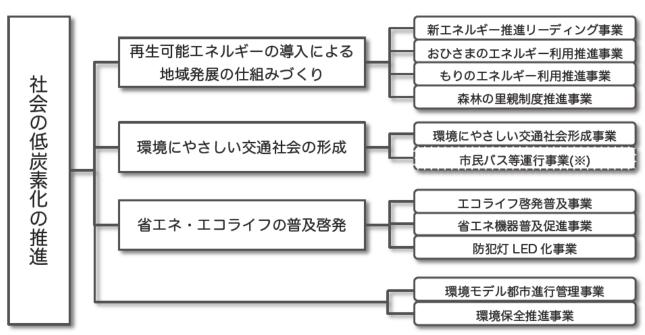
### 第2章 平成24年度の環境施策の状況

#### 基本施策1 社会の低炭素化の推進

#### 1 施策の柱と事業の構成



#### 2 施策指標の達成状況

施策指標		平成 22 年度	H24 年度	H28 年度	達成
		実績	実績	目標	状況
作用主人化사사비 수 기 유수하 및 보고 소사 비를 (#리)		699, 204	741 040		
飯田市全体が排出する温室効果ガスの排出量(推計)	t-CO <sub>2</sub>	<del>744, 859</del>	741, 942	635, 565	×
※温室効果ガス排出量は、1年遅れでの算出となる。		(H21)	(H23)		
再生可能エネルギー利用(太陽光発電・太陽熱温水器・木質		5, 382			
バイオマス燃焼機器など)による温室効果ガス排出の削減量	t-CO <sub>2</sub>	,	10, 038	8, 500	0
(推計)		4 <del>, 852</del>			
家庭用再生可能エネルギー利用の発電量を	0/	5. 7	0.0	10.0	
世帯換算した場合の世帯数に占める割合(推計)	%	<del>3. 6</del>	9. 9	10. 0	© 

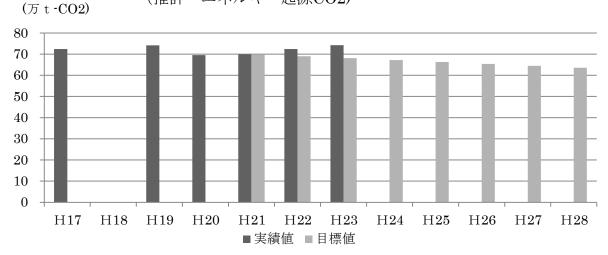
達成状況 ②:目標達成で、改善傾向 ○:目標達成で、横ばい又は悪化傾向

△:目標未達成だが改善傾向 ×:目標未達成で、横ばいまたは悪化傾向

飯田市全体が排出する温室効果ガスについては、プラン策定時の手法は、算出が2年遅れであり、 エネルギー起源二酸化炭素以外の数値の精度が低いという欠点がありました。そこで、速報性、正 確性の高いエネルギー起源の二酸化炭素を対象に算出しなおしました。それに伴い平成21年度の 実績値が6%程小さくなっています。最新の推計値は、1年遅れに変更されています。

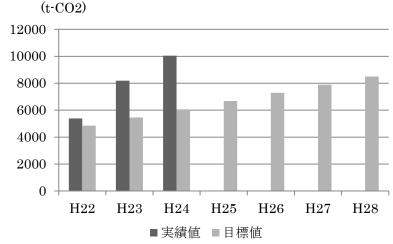
平成 21 年から平成 23 年にかけて、エネルギー使用量は減少したのですが、排出係数の悪化に伴い、温室効果ガス排出量は増えています。

## 飯田市全体が排出する温室効果ガスの排出量 (推計・エネルギー起源CO2)



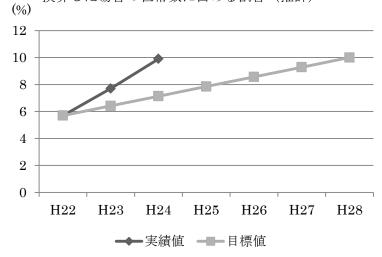
再生可能エネルギーの利用による 温室効果ガス排出の削減量について は、プラン策定時は、補助金交付実 績を基に算定していたのですが、中 部電力株式会社より協力を得られた ため、実際の市内の設備容量を基に 算定し直しています。

太陽光発電が想定以上のペースで 進んだため、平成28年度の目標値を 既に達成しています。 再生可能エネルギー利用による 温室効果ガス排出の削減量(推計)



家庭用再生可能エネルギー利用の 発電量を世帯換算した場合の世帯数 に占める割合についても、上記の発 電量と同様に実際の市内の設備容量 を基に算定し直しました。

平成23年度及び平成24年度は、 太陽光発電の導入が進んだことで、 平成28年度の目標に近い数値になっています。 家庭用再生可能エネルギー利用の発電量を世帯 換算した場合の世帯数に占める割合(推計)



## 3 施策の柱の達成状況

## 施策1-1 再生可能エネルギーの導入促進による地域発展の仕組みづくり

# 1 将来的な手順の考え方と現状

		H24 年度
	将来的な手順の考え方	
	(1) エネルギー需要量や、地域内の再生可能エネルギー賦存量の調査を進	0
第1段階	めます。	実施中
<b>第1</b> 段陷	(2) 再生可能エネルギー導入をサポートする社会的仕組みの構築に向け、	0
	関係者や専門家を交えて体制の検討をします。	実施中
	再生可能エネルギー導入をサポートする社会的仕組みの試行型を、既に動	0
第2段階	いている個々のプロジェクトをサポートする形で構築し、これを試験的に	次年度
	運用しながら仕組みを洗練させていきます。	実施予定
	   再生可能エネルギー導入をサポートする社会的な仕組みの運用が始まりま	0
第3段階		
	す。	実施予定

### 2 進行を管理する指標

施策指標(再掲)		平成 22 年度	H24 年度	H28 年度	達成
		実績	実績	目標	状況
再生可能エネルギー利用(太陽光発電・太陽熱温水器・木質		5, 382			
バイオマス燃焼機器など)による温室効果ガス排出の削減量	t-CO <sub>2</sub>		10, 038	8, 500	0
(推計)		4 <del>, 852</del>			
家庭用再生可能エネルギー利用の発電量を	0/	5. 7	0.0	10.0	
世帯換算した場合の世帯数に占める割合(推計)	%	<del>3. 6</del>	9. 9	10.0	0

## 3 事業の実施状況

J 事未		
事務事業名	おひさまのエネルギー利用推進事業	もりのエネルギー利用推進事業
担当課	地球温暖化対策課	地球温暖化対策課
全体概要	おひさまのエネルギー推進事業 1 地域に賦存する重要な自然エネルギー資源のひとつである太陽エネルギー(電気・熱)の利用を促進し、エネルギーの地産地消を推進します。 2 多様な主体の協働による取組みを具現化するため、地域で活動する民間事業者等との公民協働を育みながら、地域の財貨循環に繋がる形で太陽光発電事業を推進します。 3 太陽エネルギー利用機器の普及とともに、グリーン電力等再生可能エネルギーの持つ環境価値や最新の環境技術について市民に情報提供し、地域の事業者と連携しながら、環境技術の高度利用を図ります。	公共施設におけるエネルギーを木質バイオマスへ変換するため、機器の導入を行っていきます。また、民生部門の二酸化炭素排出削減のため、同じく市民の木質バイオマス機器導入を促し、化石燃料からの変換を行っていきます。 1 公共施設における木質バイオマス活用機器の導入市民が出入りする公共施設へ木質バイオマス活用機器を設置することにより、化石燃料からの変換を促す目的で普及啓発を行います。 2 市民への木質バイオマス活用機器導入助成石油ストーブに比べて高価な木質バイオマス活用機器の購入助成を行うことにより、市民の購入意欲を促進し、木質バイオマスの利用普及を図ります。 3 森林吸収源を生かした地域間交流の推進森林による二酸化炭素吸収地域としての強みを活かし、将来的な排出権取引を視野に入れ、都市部との地域間交流を行い、取引のあり方を考えていきます。
実績	1 一般家庭向け太陽エネルギー利用機器(太陽 光発電・太陽熱温水器)設置への奨励金事業(0円 システム含む) 2 平成9年から15年まで行った太陽光発電利子 補給事業の債務負担行為(平成26年まで) 3 メガソーラー発電設備の運営・維持管理	1 木質バイオマスエネルギーの普及推進 (1)公共施設における木質バイオマス活用機器の 導入しました。 (2)市民への木質バイオマス活用機器導入助成を しました。 (3)森林吸収源を生かした地域間交流の推進をし ました。
指標値	<ol> <li>1 太陽エネルギー利用機器奨励金交付件数 387</li> <li>2 利子補給件数 229 件</li> <li>3 維持管理出動回数 18 回</li> </ol>	(1) 導入台数 20 台 (2) 助成件数 27 件 (3) 交流会数 2 回
決算額	46,049(千円)	9,826(千円)

事務	新エネルギー推進リーディング事業
事業名	
担当課	地球温暖化対策課
	飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例を施行し、条例に基づき、地域が主体
	となった再生可能エネルギービジネスを支援するコーディネート組織を設立、運営します。
	実現可能性の高い事業の立ち上げに必要な資金を基金を設置して貸付するとともに、市場からの資金調達の仕組み
	を構築します。こうしたインセンティブをもとに、地域主体の再生可能エネルギービジネス創出を進める。
全体	飯田型再生可能エネルギービジネスの取り組みを全国に訴求して行きます。
概要	マイクロ水力発電の普及に向けた地域住民、関係者との合意形成及び技術的、社会的実証を推進します。
100.安	新たな環境モデル都市行動計画の策定を行ないます。
	りんご並木の風力発電事業についても今後の展開可能性を模索し、機器を維持する。
	「中部環境先進5市(多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市)」のTASKIプロジェクト及び自治体、NPO、研究
	機関で構成する「環境首都創造ネットワーク」に参加し、飯田型ビジネスモデルの展開、相互情報交換や人材の流動
	化の実施を通じて再生可能エネルギーの推進を図ります。
	小水力発電の市民共同スタイルの事業主体、資金調達のあり方についての実証実績により小沢川モデルの地域合
	意形成を図るとともに、小沢川モデルの水平展開にも着手しました。また、市内の準用河川等比較的小規模な河川で
	の小水力発電事業の実証調査に着手しました。これらの展開には、国や県の関係機関、専門家と連携して、環境モ
実績	デルと市が取り組む小水力市民共同発電全国展開モデルとして実施します。
大順	1 小沢川での流量調査
	2 上村での小水力発電を検討する会の開催
	3 地域エネルギービジネスコーディネート組織検討会の開催
	4 普通河川での小水力発電実証調査
	1 調査回数 12 回
上 指標値	2 開催回数 10 回
7日1示 爬	3 開催回数 12 回
	4 調査回数 8回
決算額	9,421(千円)

事務	森林の里親制度推進事業				
事業名					
担当課	林務課				
	地球環境が問題視されている中、環境活動を熱心に取り組んでいる企業・団体等と、長野県林務部で推				
	進している「森林(もり)の里親促進事業」の契約を締結し、企業・団体等から支援を頂くなかで地域との交				
	流を深め、地域と連携した森林整備を行うことにより、新しい形の里山の森林づくりを推進します。				
	現契約実績				
	平成 20 年度契約締結				
	社団法人 日本ゴルフツアー機構・				
	飯田市上郷野底山財産区				
	H20.10.1~ 1年更新				
全体	平成 22 年度契約締結				
概要	株式会社 八十二銀行・				
	飯田市北方外三区財産区・飯田市二区財産区				
	H22.4.1~H25.3.31 3か年間				
	平成 25 年 4 月 1 日付け更新契約				
	H25.4.1~H30.3.31 5か年間				
	平成 22 年度契約締結				
	株式会社 アイパックス・飯田市山本地区財産区・				
	飯伊森林組合				
	H22.12.1~H27.11.30 5か年間				
実績	企業・団体等と地域との交流会				
指標値	笹刈り・間伐・枝打ち・歩道整備等の交流回数 5回				
決算額	66(千円)				

### 施策1-2 環境にやさしい交通社会の形成

## 1 将来的な手順の考え方と現状

	将来的な手順の考え方	
	特米的な手順の考え方	の現状
	(1) 公共交通や自転車の利用者数を増やすため、市役所が率先して行動す	0
	るとともに、地域の事業者へと働きかけます。	実施中
	(2) 飯田市域は広大で都市部、郊外地、中山間地など多様な地域特性があ	0
	ります。それにあった交通体系を検討します。	実施中
	(3) 自転車利用の健康面などの多面的な効果を周知するとともに、レンタ	$\wedge$
第1段階	サイクルやイベントを通じてスポーツバイクや電動アシスト自転車を体	
	験して貰います。	一部実施
	(4) エコドライブの普及に取り組みます。	0
	(4) ニュドライラの自及に取り組みより。	実施中
	(5) 電気自動車の貸出しを通じて利用体験をしてもらい、関心を高めるこ	0
	とで普及につなげていきます。	実施中
第2段階	公共交通の改善、充実に取り組みます。他の交通手段についても、利用の	$\triangle$
<b>分4</b> 段陷	状況を見ながらインフラを充実させていきます。	一部実施

### 2 進行を管理する指標

指標名	単位	H22 年度	H24 年度	H28 年度	達成状況
ノーマイカー通勤参加者数(10月に実施)	人	6, 262	11, 763	10, 000	0
レンタサイクル自転車の走行距離(1年間)	Km	45, 015	57, 213	48, 000	0
バス、乗り合いタクシーの利用者数 (1年間)	人	313, 205	336, 752	329, 000	0

達成状況 ②:目標達成で、改善傾向 ○:目標達成で、横ばい又は悪化傾向

△:目標未達成だが改善傾向 ×:目標未達成で、横ばいまたは悪化傾向

## 3 事業の実施状況

3 争業	: の美胞状況
事務 事業名	市民バス等運行事業
担当課	リニア推進課
全体概要	1 多様な主体(市民、交通事業者、行政等)で構成される「飯田市地域公共交通改善市民会議」(協議会)による市域の公共交通の改善検討及び広域連合、他町村との連携による南信州地域の公共交通のあり方を検討します。 2 運行支援(運行欠損額補てん)を行います。 (1)バス:循環線、大休線、三穂線、千代線、久堅線、遠山郷線、平岡線、駒場線、阿島線(2)乗合タクシー:竜東線、三穂線、川路線、かざこし線、上市田線、遠山地域 5 路線、平岡線、八重河内線、遠山郷高校通学支援線 3 利用促進事業を実施します。 (1)バス(JR 飯田線含む)、乗合タクシー(地区別、路線別)時刻表の作成、配布
	(2)乗合タクシー利用者アンケート、バス乗降調査 (3)まちづくり委員会、地区民協等との連携 等
実績	1 「地域公共交通改善市民会議」(協議会)による地域公共交通の改善検討及び、広域連合、他町村との連携による南信州地域の公共交通のあり方を検討しました。 2 運行支援(運行赤字補てん)を行いました。 (1)バス:循環線、大休線、三穂線、千代線、久堅線、遠山郷線、平岡線、駒場線、阿島線 (2)乗合タクシー:竜東線、三穂線、川路線、かざこし線(切石線丸山線統合)、遠山地域5路線、平岡線、八重河内線、遠山郷高校通学支援線、上市田線 (3)バス利用者数 (4)乗合タクシー利用者数 3 利用促進事業を実施しました。 (1)バス時刻表、乗合タクシー地区別時刻表・路線別時刻表の作成配布 (2)乗合タクシー利用者アンケート、バス乗降調査 (3)地区民協、高齢者集まり等への出張 PR (4)クーポン券発行(高齢者、学生、一般) (5)バス運行経路変更(循環線、遠山郷線、千代線) (6)乗合タクシー停留所追加、区域・時刻見直し (7)商店街との連携
指標値	1(1)協議会開催数 2 回 1(2)部会等開催数 7 回 2(1)バス路線数 9 路線 2(2)乗合タクシー路線数 13 路線 2(3)バス利用者数 313,669 人 [104.8%] 2(4)乗合タクシー利用者数 23,083 人 [113.3%] 3(1)時刻表作成数 85,150 部 3(2)アンケート回収数 100 部 3(3)出張回数 24 回
決算額	72,688(千円)

事務事業名	環境にやさしい交通社会形成事業
担当課	地球温暖化対策課
	1 ノーマイカー通勤の励行
	「地域ぐるみ環境ISO研究会」が温暖化防止に向けて取り組んでいるノーマイカー通勤の一斉行動を支
	援し、事業所・市民・行政が一体となり地域ぐるみで温暖化防止に取り組みます。
全体	2 EV 車、ハイブリッド車の普及
概要	EV 車、HV 車の普及 PR を行い、低炭素な乗り物への転換を促します。
	3 飯田地球温暖化対策地域協議会とともに、エコドライブを推進します。
	4 自転車利用の推進
	自転車市民共同利用システムの運行を核とした自転車利用の推進に取り組みます。
	1 地球温暖化防止一斉行動の支援
	(1)ノーマイカー通勤一斉行動の実施 10 月頃
	2 EV 車、ハイブリッド車の普及
	(1)EV 車の地域ぐるみ環境 ISO 研究会参加事業所への貸出しをしました。
	3 エコドライブ 1000 人プロジェクトへの参加促進
実績	4 自転車利用の推進
	(1)自転車関連イベントの開催
	(2)自転車市民共同利用システムの運行
	ア 新規貸出事業所、宿泊施設の開拓
	イ 一般用貸出拠点の増加による利用推進
	ウ 自転車モニター貸出の試行及び運用
	1(1)11763人
	2(1)4事業所
	3 89 人
指標値	4(1)2回
10 10 10	(2)57212km
	ア 5カ所
	イ 1カ所
	ウ 0回
決算額	4,103(千円)

#### 施策1-3 省エネ・エコライフの普及啓発

### 1 将来的な手順の考え方と現状

	将来的な手順の考え方		
	(1) 市民、飯田市内で活動する事業者に向けて、省エネの必要性と有効性	0	
	に関する開発活動を進めます。	実施中	
第1段階	(2) 飯田市内で先駆的にエコライフを実践している人々とともに、飯田に	未実施	
- 另 1 权陷	即したエコライフについて、研究・検討を進めます。	<b>小</b> 天旭	
	(3) 飯田市内で活動する事業者に向けて、省エネ型製品の必要性に関する	0	
	情報を周知し、環境配慮型製品の開発を働きかけます。	実施中	
	(1) 飯田型エコライフ・スタイルを提案します。さらに、飯田市内で先駆		
第2段階	的にエコライフを実践する人々の情報を集めながら、随時、情報を更新	未実施	
	して発進します。		
	(2) エコライフを推進するための仕組みを具体的に検討していきます。	未実施	

### 2 進行を管理する指標

指標名	単位	H21 年度	H23 年度	H28 年度	達成状況
温室効果ガス排出量(民生部門)2005 年比	%	+1. 4 <del>=10. 2</del>	+0. 9	-20. 0	Δ

達成状況 ②:目標達成で、改善傾向 ○:目標達成で、横ばい又は悪化傾向

△:目標未達成だが改善傾向 ×:目標未達成で、横ばいまたは悪化傾向

## 3 事業の実施状況

事務	エコライフ啓発普及事業		
事業名	エーノイノ石光目及事業		
担当課	地球温暖化対策課		
全体概要	1 エコライフ普及啓発事業		
	温室効果ガスの排出量が多い民生部門における低炭素化の取組や行動の啓発・普及を図ります。民生		
	部門の低炭素化は、衣食住において必要以上のエネルギーを使わないこと、すなわち環境負荷の低減		
	が大切です。それが日常的な実践になるためには、様々なハウツウやアクティビティを発信し、特にエネ		
	ルギー消費の多い世代を対象にし、体験してもらいながら理解と納得を得られるような取り組みが重要で		
,,	あり、重点的に普及啓発を行います。		
	2 地域全体で地球温暖化防止を推進してゆくための市民組織である飯田市地球温暖化対策地域協議		
	会の活動を支援し、多様な主体の協働により温暖化防止活動を推進します。		
	1 エコライフ普及啓発事業		
	(1)りんご並木のエコハウス等を利用したエコ住宅、省エネ機器の普及啓発		
	(2)りんご並木のエコハウス等を利用したエコライフの普及啓発		
	(3)エコライフコーディネーターの活用によるエコライフの普及啓発		
実績	(4)新たなエコライフコーディネーターの任命と育成		
	(5)まちづくり委員会・各種団体等と協働したエコライフの普及啓発、PR		
	(6)省エネルギー機器の情報収集及び周知←省エネ機器普及促進事業より移管		
	(7)広報いいだを利用したエコライフの普及啓発		
	2 飯田市地球温暖化対策地域協議会運営事業		
	(1)新エネルギー、省エネルギーの普及にかかる意識啓発事業		
	(2)エコドライブ 1000 人プロジェクトの普及		
	(3)会員の知識向上を図る視察研修		
	1(1)実施回数 2421 組 7533人		
	(2) 実施回数52回 506人		
指標値	(3)実施回数3回 参加者人数50人		
	(5)実施回数2回		
	(6) 実施回数1回		
	(7)実施回数12 回		
	2(1) 実施回数 23回		
	(2)参加者人数 694 人		
	(3) 実施回数 2回		
決算額	2,911(千円)		

事務事業名	省工ネ機器普及促進事業	防犯灯 LED 化事業
担当課	地球温暖化対策課	危機管理·交通安全対策室
	低炭素社会への移行には、事業活動の省エネ化、	
	建築物(既築を含む)の省エネ化及び省エネ機器	
	の普及促進が必要です。	平成21年4月、環境省総合環境政策局の環境保
	これらの移行過程では、地場の企業が、技術開発	全型地域づくり推進事業により、補助金が交付され
全体	に投資できる大企業に対して競争力を持てるように	たことから、市内に設置してある防犯灯約6,000灯
概要	配慮することが重要です。	の半数について、LED 一体型の防犯灯に取り替え
	・省エネ制度(改正省エネ法、CASBEE、エネルギ	たため、残り3000灯の防犯灯について、5 カ年計
	ーパス等)、技術、機器の情報収集及び周知	画で LED 一体型と取り替えるものです。
	・地場の中小企業の低炭素対応社会への対応力を	
	向上するための講習会等開催します。	
実績	公共施設に雨水タンクを設置し、雨水の有効利用	1 既設防犯灯の LED 灯具への取り換え工事(灯
	の促進と市民の意識啓発を行いました。	具18千円+工賃17千円)
指標値	2件	1 取り替え防犯灯数 524 灯
決算額	404(千円)	17,168(千円)

施策1 その他事業の実施状況

事務事業名	環境保全推進事業	環境モデル都市進行管理事業
担当課	地球温暖化対策課	地球温暖化対策課
全体概要	1 環境政策を的確に行うため環境審議会を開催します。 2 環境首都コンテストを通じて発足した中部環境先進5市(多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市)のTASKIプロジェクトに参加し相互に情報交換を行います。	1 環境モデル都市・飯田の特色ある環境政策は多くの方々から注目されており、全国に向けて情報発信をします。 2 環境モデル都市として行うその年度の事業の内容や、再生可能エネルギーに関する国等の動向等について、市民に対して説明会を開催。市民の理解と協力を得て、多様な主体の協働による環境政策を推進します。 3 環境モデル都市である都市が構成する会議や、この制度を所管する内閣官房・環境省等が主催する連絡会議に出席し、当市の政策の事例報告や必要な情報を取得し、当市の環境政策に反映させます。 4 地球規模で展開する公的な環境保護団体に加盟、必要な会議に出席し、国際的な情報発信、情報交換、意見交換を行い、当市の環境政策に反映させます。 5 市域からのCO2排出量調査を年1回行います。
実績	<ol> <li>環境審議会の運営</li> <li>TASKIプロジェクトへの参加</li> </ol>	1 環境モデル都市として行う事業に関する説明会を市内20地区で引き続き開催しました。環境プランの第3次改訂を反映し、多様な主体の協働による取組みを促進するため、飯田市の環境政策を出来る限り身近に感じ、何を目指しどう理解していただく機会とします。 2 環境未来都市へのチャレンジを支援すべく、環境モデル都市や低炭素都市推進協議会等の会議へ積極的に出席して国や他市の事例を積極的に収集したり、当市の情報を発信するなどし、その成果を当市の政策にも反映させました。 3 市域からのCO2排出量調査を、従来の手法により年に1回行いました。また、現在国が検討しているCO2排出量の市町村別排出量の新たな手法についても、積極的に国に協力し、国との連携も深めました。
指標値	1 開催数2回 2 プロジェクト参加数5回	20回(全地区実施) のべ12回 1回
決算額	587(千円)	1,965(千円)